

令和元年 7 月 29 日

第 6 回 JCHO 秋田病院地域協議会議事録

(日時) 令和元年 7 月 10 日 (水) 18 : 30 ~ 19 : 30

(場所) JCHO 秋田病院 健康管理センター 大ホール

(出席者) 永井委員 田村 (典) 委員 (齊藤委員代理) 佐々木 (文) 委員  
田村委員 山須田委員 楊委員 石川委員  
田村 (要) 委員 (伊藤委員代理) 松井委員 (太田原委員代理)  
加藤委員 小笠原委員 日沼委員 薩摩委員 小林委員 大友委員  
石岡委員 金子委員 大塚委員 高田委員 佐々木 (葉) 委員  
小野委員 船越委員 米川委員 工藤委員

(欠席者) 芳賀委員

- (議題)
1. 平成 30 年度 JCHO 秋田病院事業概況及び令和元年度計画について
  2. 平成 30 年度 7 月からのトピックス・健康講座及び病棟アンケート等・  
分科会 (令和元年 7 月 4 日開催) 報告について
  3. 秋田病院に対するニーズについて

司会 安藤

ただいまより、第6回独立行政法人地域医療機能推進機構秋田病院地域協議会を開催致します。この地域協議会は独立行政法人地域医療機能推進機構法第20条で設置することが義務付けられておりまして、当院では、本日の協議会の他、分科会を年2回、計3回の開催となっております。この目的は、施設の運営にあたり、広く利用者その他の関係者の意見をお聴きし、当地域の実情に応じた運営に努めるためでございます。本日はよろしくお願い申し上げます。

ここで石岡病院長より一言ご挨拶がございます。

**JCHO 秋田病院 病院長挨拶**

石岡 隆

皆さんこんばんは。今日はお忙しい中、またお仕事のお疲れのところ、JCHO 秋田病院の地域協議会においでくださいまして、誠にありがとうございます。日頃皆様には、いろいろとお世話になっておりますことを、この場をお借りしましてお礼申し上げます。JCHO になりましたから、丸5年が経ちました。お陰様で、昨年度もなんとかぎりぎりの黒字を確保することができました。第1期中期5か年計画も無事クリアすることができました。これもひとえに、皆様の教えの賜物と感謝しております。今年度から、第2期中期計画に入りまして、新たな目標が定められたところでございます。本日は当院について、忌憚のないご意見ご要望を賜り、今後の病院に活かして参りたいと思っておりますので、ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。どうぞ、よろしくお願い致します。

司会

議事に入ります前に、この度新たに委員となられた方のご紹介を致します。一言ご挨拶お願い致します。能代市社会福祉協議会会長の田村重由委員です。能代山本医師会病院院長の加藤裕治郎委員です。秋田県看護協会能代山本地区支部長日沼ゆかり委員です。続きまして、当院委員ですが健康管理センター課長補佐の米川委員、地域連携室看護師長工藤ゆかり委員です。本日の出席状況ですが、芳賀委員が所用のため欠席となっております。尚、本日能代市長齊藤委員の代理として、能代市健康づくり課田村典勝課長、能代厚生医療センター太田原委員の代理として松井俊彦副院長、能代山本広域市町村圏総合消防本部伊藤委員の代理として田村要救急課長にご出席いただいております。

各々、自己紹介

司会

それでは、規定第6条により議長は委員長が務めるとなっておりますので、山須田先生議長の方へよろしくお願い申し上げます。

## 議長挨拶・資格審査報告・議事録署名人指名

山須田議長

山須田でございます。よろしくお願い致します。本日この会は、JCHO 秋田病院の運営にあたりまして、有意義な会議となりますように、進行を心がけておりますので、よろしくお願い致します。

それでは、事務局より本協議会の資格審査報告をお願い致します。

三熊委員

本協議会は、委員 25 名中 24 名の出席により協議会は成立していることをご報告致します。

山須田議長

ありがとうございました。それでは、規定により議事録を作成し保存することとなっておりますので、議事録署名人を薩摩委員と小笠原委員にお願いしたいのですが如何でしょうか。(異議なし) それでは、よろしくお願い申し上げます。

それでは議事に入ります。本日予定の議案は 3 つとなっております。それぞれ活発なご意見をよろしくお願い致します。

1 つ目は、平成 30 年度秋田病院事業概況及び令和元年度計画について、石岡委員お願い致します。

石岡委員

- ・平成 30 年度 JCHO 秋田病院事業概況
- ・令和元年度計画について

(別添資料 P4～8)

山須田議長

ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明にご質問ご意見等ありましたらお願い致しますと思いますが、どなたかございませんか。

永井委員

能代保健所の永井です。1 つ教えていただきたいのですが、小児科外来が感染対策強化へなったというご説明をいただきましたが、具体的にどのように強化されたのか教えていただいてもよろしいでしょうか。

石岡委員

これは、感染症が疑われる人を、一般の患者様と一緒にではなく、また別の個室で管理するという事で、診察前の患者様のベッドも作っております。

永井委員

はい、ありがとうございます。

山須田議長

他にございませんか。

また、思い出しましたら、最後にご発言いただければと思います。

続きまして2つ目、平成30年度7月からのトピックス・健康講座及び病棟アンケート等・分科会報告について、それぞれ各担当報告をお願いします。

高田委員

・平成30年度からのトピックス

(別添資料 P9～17)

佐々木(葉)委員

・病棟アンケート結果

(別添資料 P18～22)

工藤委員

・健康講座等アンケート結果

(別添資料 P22～24)

船越委員

・分科会報告

(別添資料 P25～35)

山須田議長

ご報告ありがとうございました。それでは、ただいまのご説明に関して、皆様からご質問やご意見等ありましたら、お願い致します。

ないようでございますね。

それでは、以上の報告も踏まえ最後の議案は、秋田病院に対するニーズについて、となります。これまでの報告に関連したもの、もしくは新たなご意見でもよろしいので皆さまからご意見をいただければと思います。

では、私から、永井委員へお願いしたいことがあります。2025年に団塊の世代が後期高齢者になっていく段階において、この地域においても地域医療構想があると思います。このことについて、もしかしたら知らない方もいらっしゃるかもしれませんので、永井委員から、どういったことが相談されて、今後どういった方向で進んでいくか、少しご説明いただいでよろしいでしょうか。

永井委員

2025年問題というところで、この地域でも高齢化が進み、また人口は減っていくことで、患者様も少なくなっていきます。その中で、急性期医療については、今後この地域でも今よりベッド数を減らしていく方向で考えていく必要があると思われまます。それと合わせ、慢性期については、在宅医療を充実させていくことを進めていく必要があるのだと思います。また、急性期が終わった後の患者様については、回復期病棟に移っていくものですが、この回復期病棟がこの管内において不足しています。これから地域医療構想という会議を年に2回実施していく中で、現状を踏まえながら、この地域の人口構成に合った病床数や病床の中身を、今後全体で考えていけたらと思ひ、会議を行っております。この地域のニーズに合った医療提供体制が整っていけば良いと考えております。

山須田議長

2025年問題については、今後地域医療にかかる人たちが関心を持っていかなければならないように感じます。また住民の方も今までのかかりつけがどうなるのだろうかといったご心配もあるでしょうし、記事等も出るかと思われまますので、ぜひ関心を持っていただければありがたいと思ひます。特に、私も関わらせていただくことがあるのですが、慢性期医療について、これから自宅や、高齢者住宅等で生活する患者様に様々な職種が関わり合って、この地域での慢性期医療を支えていこうということになるかと思われまます。これはJCHO秋田病院のみの問題ではなく、ぜひ皆様にも関心を持っていただければありがたいと思っております。また、現在2025年問題が話題として出ておりますが、今後2040年問題も出てきます。2040年問題となりますと、秋田県の人口が70万人を切り、おそらく県北の人口が13万人台になることが予想されていまます。すると、今回の2025年問題以上に深刻な問題となるため、皆様関心を持って対応し、自分ができることを十分認識して、これからの計画に活発に発言していただけたらと思ひます。JCHO秋田病院含め、この地域のすべての医療機関がそういった認識を持っていまますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

長くなりましたが、他にございませんか。

楊委員

JCHOの先生方や職員の皆様には、日常診療、救急医療、健診医療共に、地域のために活動していただき、大変ありがとうございます。現在、脳脊髄センターさんから先生がいらっしやっているとと思ひます。この先生方と、竹島先生との分野の並立はどのようにすれば良いでしょうか。

石岡委員

竹島先生は、まだ若い先生ですので、脳脊髄センター、今は秋田大学病院に所属しておりますが、中瀬先生に来ていただいております。竹島先生の希望として、中瀬先生と一緒に診療しながら、研修も兼ねて行いたいということですので、分けてというよりは一緒に行っている状態です。

山須田議長

他にどなたかございませんか。

加藤院長は初めてですが、何か感想等ございますか。

加藤委員

JCHO の先生方は、一生懸命頑張られており、感動しました。ACP を出前講座で行っていると聞き、是非金子先生にお願いしたいのですが、病院への出前も行っていただけるのでしょうか。

金子委員

勉強させていただきます。

加藤委員

よろしくをお願いします。

山須田議長

松井先生、今回大田原先生の代理ということで、先生からも一言お願い致します。

松井委員

先ほど、接遇の話が出ましたけれど、今日来ていただいている当院の看護部長も、接遇という点に一生懸命取り組んでおり、様々な賞をいただいております。もしかしたら、何らかのお力になれるかもしれないので、是非頼っていただけたらと思います。

佐々木（葉）委員

ご相談させていただきます。

山須田議長

それから、佐々木町長さんもいらしているので、行政の観点から何かお願い致します。

佐々木（文）委員

私も人間ドッグを JCHO でさせていただいておまして、非常にテキパキと患者様の誘導ができており、非常に助かっております。ごく一部ではありますが、アンケートにもありますように、私自身も、バリウムを飲んだ際の接遇で少し傷つくなど思った対応をされたことがあり残念だと感じました。

石岡委員

申し訳ありません。改善いたします。

山須田議長

まだお時間もございますので、薩摩委員からも一言お願い致します。

薩摩委員

私からは、住民の代表としてなので、患者の立場から話させていただきます。先ほど、人口減少や少子高齢化が問題視されているというお話でしたが、私もそれを非常に危惧しております。分科会の中でも話させていただきましたが、近所に一人暮らしや高齢者の二人暮らし、耳の遠くなった方、様々な方がおります。やはり一番大きな問題は人口減少なのですが、医師会病院をはじめ、それぞれの病院が患者さんの減少について、どのように考えているのか、その点について1つお願い致します。

石岡委員

先ほどの統計にもありました通り、新患の患者様がどんどん減っております。患者様全体としては、減っていると思いますが、今、団塊の世代が高齢化に向かうというところで、急に患者様の数が下がるというわけではなく、ここ何年かは若干横ばいから下降気味になるかと思いますが、団塊の世代が90代になった頃に、急に下がるのだと感じております。なので、手術の件数や急性期の入院者の数がだんだん減っていると思いますので、それに合わせ、回復期等、病院の機能を少しずつ転回していく必要があるのだと思っております。

山須田議長

ありがとうございます。

それでは、利用者代表というところで、小林委員から何かご感想等いただけますか。

小林委員

私からは、介護員が足りないということが言われておりますので、この点について JCHO 秋田病院ではどうなのか、お聞かせいただきたいと思います。

#### 石岡委員

介護福祉士は、学校を出て資格を得てなる人と、経験を積んで資格を得る人がおります。今まで地域が不景気だった頃は、介護員講座の受講者数が多かったのですが、火力発電所の第3号の工事に取り掛かった辺りから、受講者数が激減しており介護員を目指す人がかなり減っていると聞いております。学校でも、介護士の仕事がキツイということがありまして、目指す人が激減しているということと、学生が減っているためか、新しく応募してくる方がほとんどいないという現状になっております。その対策の1つとして、外国の方の導入もあるのですが、様々な言葉の問題や資格を取るまでのプロセス等、今の当院では対応できてはいない状態です。

#### 山須田議長

ありがとうございました。

まだ若干時間がございます。私から1つ、今年から包括支援センターが3つに分かれ、JCHO秋田病院でも中心部を担っていると思うのですが、業務上で何か苦労談等ありましたらお聞かせいただきたいです。

#### 本庁地域包括支援センター 三浦師長

皆さまにはいつもお世話になっており、ありがとうございます。本庁地域包括支援センターを担当しております三浦といいます。本庁の地域は8,000人ほどの65歳以上の方を担当させていただいております。他の包括支援センターの職員と意見交換をしてみますと、やはり中心部だということと、多彩な問題等、相談件数は当センターが1番多い状態です。去年の統計を見ますと、約2,000件の述べ件数を持っておりまして、その中でも1番相談として多くなっていると感じる部分が、弱くなってきたという内容の相談件数、また1人暮らし、食事が作れないことや買い物に行けない等、生活に困ってきているという内容があります。介護認定に結び付けていいものなのか、ということに加え、経済的な問題等のデリケートな問題が加わってくるため、非常に判断が難しいと感じるところがあります。

秋田病院が受託したということで、活動していてとても助かると感じるところが、まずは、三職種が協働してやっており、病状の判断をしながら利用者の方に希望は聞きますが、どこの病院がいいか分からないという方には、当院の受診をご相談させていただけるということです。本来であれば、かかりつけ医もありますので、最終的にはそちらへ結び付けていけるように誘導いたしますが、急を要する場合には、大変助かっております。

また、健康講座というところで、包括支援センターでは、介護予防教室も開催させていただいているので、医療機関が受託したことにより、当院の医療職員の方を講師に招くことで、院内の職員が地域に出向いて、地域に貢献できるという点が良いと思っております。地域の皆様にはそういったところで早く対応できているところが良いというお声もいただけていますし、資料を見ましたところ、まだまだ周知が足りないというご意見もありましたので、そういったところはこれから対策していかなければならないと思っております。



山須田議長

ありがとうございました。医師会病院でも引き受けておりますが、去年までは能代市で行っていたときは、慣れないといったところで、非常に不手際でトラブルとは言わずとも、そのような状態でした。引き続き、三包括支援センターで連携しながら地域を支えてまいりたいと思いますので、よろしくお願い致します。

いろいろ貴重なご意見が出されましたけれど、だいたいお時間となりました。この後は、来年1月を目途に本年度第2回目の分科会が開催される予定です。引き続き地域の要望の拾い上げとその実現をお願い致しまして、第6回JCHO秋田病院地域協議会を閉じたいと思います。本日はお疲れ様でございました。


19時30分終了

(文責 小野)

以上、この議事録が正確であることを証します。

令和元年7月29日

議長 殿

議事録署名人 小笠原 達志  印

議事録署名人 薩摩 博  印